

令和2年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

大野市地域公共交通活性化協議会

平成20年2月29日設置

フィーダー系統 令和元年6月21日 確保維持計画策定等

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>市外への病院等への利用もあることから、マイ時刻表に市外の公共交通情報も掲載し、外出の促進。また観光や商業等との連携による公共交通とまちづくりの連携による意識啓発と利用促進に取り組まれていることを評価する。</p>	<p>継続的にマイ時刻表の作成や、観光や商工業との連携を実施。 【観光や商工業との連携内容】 ・休日イベント日にまちなか循環バスの増便 ・まちなか循環バス定期券購入者に対してまちなか循環バス応援企画協力店からお買物券がもらえる。</p>	<p>ウィズ/アフターコロナを見据え、各種まちづくりと連携した安全な公共交通の運行確保や周知・PRを図る。</p>
<p>引き続き利用促進を実施されることを期待する。 また、中部縦貫道開通を見据えたまちづくりに併せた公共交通の検討により、利用者が増加することを期待する。</p>	<p>令和3年4月22日の道の駅「越前おおの 荒島の郷」開駅日に併せて、市営バス「道の駅線」の運行を開始予定。また、関連する乗合タクシーに停留所を追加予定。</p>	<p>運行の実績を踏まえて、運行内容などを見直し、利用促進を図る。</p>

＜大野市地域公共網形成計画＞ (H31～H35) (平成31年3月策定)

●地域の特性と背景

- ・ **大野市**：福井県の東部に位置し、人口33,058人（R元年10月1日現在）、福井県内最大の面積（872.3km²）
- ・ **高齢化率**：34.0%（平成27年国勢調査）（県内でも2番目）と全国平均（26.6%）を大きく上回る
- ・ **公共交通**：広域交通 → JR越美北線、京福バス大野線、京福バス勝山大野線
 地域内交通→ まちなか循環バス（市街地）、乗合タクシー（田園部）、市営バス（山間部）

●大野市地域公共交通網形成計画の要点 (H31.3策定、期間：H31～H35 (R5))

○公共交通の将来像

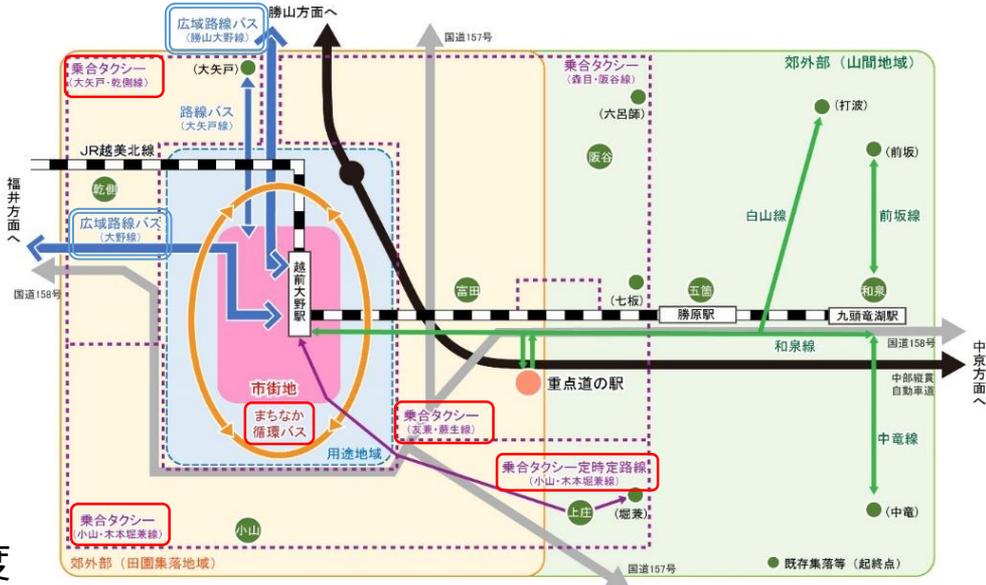
『地域で暮らし続けることができるまちづくりと連携した持続可能な公共交通』

○基本方針

- ①交通機関の役割と特性を活かし、
住み慣れた地域で住み続けられる
公共交通の実現
- ②市民の積極的な利用による、将来に
わたって持続可能な公共交通の実現
- ③様々なまちづくり分野と連携し、
外出機会及び波及効果を創出する
公共交通の実現

○目標値

- ・ 年間利用者数 / ・ 1便当たり利用者
- ・ 収支率 / ・ 公共交通利用者の満足度
- ・ 公共交通利用者の利用意識
- ・ 運転免許自主返納支援事業の利用件数 など



広域連携軸	地域内連携軸	地域間連携軸
JR越美北線	まちなか循環バス	路線バス (大矢戸線)
広域路線バス (大野線、勝山大野線)	市営バス (前坂線、中電線)	市営バス (和泉線、白山線)
		乗合タクシー (定時定路線)
		乗合タクシー (区域運行)

【補助対象路線】
地域間幹線系統

【補助対象路線】
地域内フィーダー系統

●具体的な取組み内容（主に補助対象路線） ※赤字は今年度実施

①運行見直し

- まちなか循環バス：イベント日の増便、無料券の配布（R1～）、冬季の夕方便運行（R1～）

②利用促進

- ・マイ時刻表作成の開始 ⇒ H29.6月～ 市内だけでなく、他市の情報も掲載
- ・運転免許自主返納支援制度 ⇒ H24～
- ・まちなか循環バスの定期券購入者に対する買物券進呈（小売事業者の協力によるもの）
- ・広域路線バスの市内区間の利用に対する助成（65歳以上の市民が対象）
- ・民間バス会社の定期券利用範囲の拡大（市内公共交通も対象に追加）
- ・市内高校、後期高齢者説明会等において、公共交通利用のチラシを配布し利用を周知
- ・**新型コロナウイルス感染症予防に係る高校の休校の延長に伴い、高校生を対象に、バス定期券の期限延長を実施**

③新型コロナウイルス対策

- **交通事業者による感染予防の徹底（車内に消毒液の設置、喚起の徹底、感染予防シートの設置等）を図るとともに、駅前広場バス待合所、バス車内に感染予防に係る注意喚起のチラシを掲示した**
- **広報おおの9月号（9月20日「バスの日」に合わせて）に交通事業者が感染予防に取り組んでいることを市民に周知し、併せて市内公共交通機関の利用促進を促した**

●公共交通網評価の基本的考え方と評価基準

評価項目	目標	設定理由
年間利用者数	市民一人当たりの利用回数を1~2割増加	過去最も利用率が高かった割合を設定
1便当たり利用者数	〃	過去の利用傾向を踏まえ設定
収支率	現状よりも改善	上記①、②を基に設定

1) 目標指標に関する評価 【補助対象路線】 ※上段：総利用者数、中段：便利用者数、下段：収支率

路線	目標値 (R2)	実績値 (R2)	評価
まちなか循環バス	18,700人 5.98人/便 8.0%	11,474人 3.76人/便 4.7%	C ・冬季の積雪が少ないほか、新型コロナウイルスの影響で利用者が減少 ・6月以降は通学利用は回復
乗合タクシー合計	5,070人 1.92人/便 7.3%	3,655人 1.54人/便 4.3%	C ・利用が低迷しており、新規の利用者確保に向けた利用促進が必要
大矢戸・乾側線	320人 1.39人/便 —	426人 1.17人/便 —	B ・新たな定期的な利用者が増加 ・利用者のつながりでの拡大などが必要
森目・阪谷線	2,400人 2.15人/便 —	1,247人 1.67人/便 —	C ・定期利用者の減少や新型コロナウイルスの影響により減少しており、新たな定期利用者の確保が必要
友兼・蕨生線	1,100人 1.82人/便 —	1,101人 1.61人/便 —	B ・利用増加傾向であったが、新型コロナウイルスの影響でほぼ前年並みの利用
小山・木本堀兼線	1,250人 1.83人/便 —	881人 1.52人/便 —	C ・定期利用者の減少や新型コロナウイルスの影響により減少しており、新たな定期利用者の確保が必要

2) その他路線に関する評価 【非補助対象路線】市営バス、市内路線バス、広域路線バス

- 市営バス（白山線・和泉線・前坂線・中竜線）・市内路線バス（大矢戸線）
少子化に伴い児童・生徒が減少し、利用者が減少（特に白山線の利用が低迷）
- 広域路線バス（京福バス大野線、勝山大野線） ※【補助対象路線】地域間幹線系統
人口減少、モータリゼーションにより利用者数が年々減少

【自己評価から得られた課題】

①目標の達成状況に関する課題

- 新型コロナウイルスの影響で、公共交通利用者が大幅に減少
- 外出自粛に伴い高齢者等の外出機会の低下
→安全・安心に外出できる環境整備や、適切な周知・PRによる利用促進（呼び戻し）が必要

②公共交通ネットワークに関する課題

- 児童・生徒の通学手段や高齢者の買い物・通院等の日常生活を支える上で必要不可欠な路線の維持
→ウィズ/アフターコロナや新幹線開業、中部縦貫自動車道の開通を見据え、多様な移動手段の確保・維持が必要

③公共交通の維持に関する課題

- 利用者減少による交通事業者の経営悪化
- 定期的な利用者の高齢化等による利用減少が顕在化
→利用者ニーズに応じた運行内容・サービスの充実による新たな利用者の確保が必要

【今後の方針】

＜全体＞

- 新型コロナウイルス対策の継続・改善
- 安全性の周知・PRによる利用者の呼び戻し
- 新たな公共交通利用の提案と周知・PR

＜まちなか循環バス＞

- 高校生への安全性の周知及び利用喚起
- ルート、停留所の見直し検討

＜乗合タクシー＞

- 道の駅開駅に対応した運行内容の見直し（停留所の新設等）
- 地域と連携した説明会の開催による利用促進

＜市営バス＞

- 運行継続による通学手段の確保
- 道の駅開駅に対応した運行内容の見直し（道の駅線の運行開始：まちなかと道の駅との公共交通を確保することで、道の駅と公共交通の相互の活性化を促進する。道の駅を起点とした新たな公共交通利用者の確保を目指す。）

＜市内路線バス＞（京福バス大矢戸線）

- 運行補助の継続による通学手段の確保

＜広域路線バス＞（京福バス大野線、勝山大野線）

- いきいき定期券の周知拡大
- 市内区間利用助成（100円乗車）の継続
- 運行継続に向けた事業者への支援（運行補助）